

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	伊予市中山町中山丑523番地1
自己評価作成日	平成 23年8月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 23 年 8 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームを清潔に保つと共に季節感を感じてもらう為、季節の花等を飾るようにしている。スタッフは利用者の方の要望に耳を傾けると共に日々観察をし状態にあった支援をするよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の健康管理や緊急時の対応等について、協力医療機関と速やかに連携を図る体制が構築されており、利用者や家族は医療面の不安なく過ごしている。職員は、笑顔が心がけ、各自のロッカーに笑顔で接する具体的な努力目標を掲示している。管理者は日頃からケアに携わっており、職員とコミュニケーションが良くとれている。職員からも「意見が言いやすく明るい職場です」と笑顔で話があり職員同士の仲がよく、共にケアの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) くり

記入者(管理者)

氏名 岡田 絹子

評価完了日 平成23年8月3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所内・ホーム内の理念があり、ホームに掲示している。全スタッフ理念の共有はできていると思う。しかし全スタッフが一緒に振り返る機会が少ないので定期的に理念を再確認していきたいと思う。また、地域密着型サービスの意義は理念に組み入っていない為徐々に組み入れていきたい。</p> <p>(外部評価) 法人の運営理念を基に、地域とのつながりを大切にしながらその人らしく暮らしていくことを支える「私たちの介護理念」を各ユニットごとで作成し、ホーム内の見やすい場所に掲示している。月1回のカンファレンスで共通認識を持ちより質の高いサービスの提供に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 小学生・中学生の訪問受け入れ・運営推進会議の実施・子供みこし・おいのこさん等訪問受け入れ、近所へ買い物・散歩等に行くようにしている。年1回家族会時地域の方の参加も集い交流を深める努力をしている。</p> <p>(外部評価) 地域の人達と繋がりを持ちたいという思いから、町内会に加入し、回覧板を通して地域の行事等を把握している。中学校の総合学習の受け入れも行っている。地域との関わりを深めるよう模索しながら取り組む姿勢がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 不十分ではあるが運営推進会議等での話し合い、また学生の総合学習の受け入れをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行事等サービスの取り組み状況報告えおし地域の方から地域の行事予定をおしえていただいております地域行事参加に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は定期的開催され、ホームの現状や行事等を報告し、ホームの抱える課題について参加者に意見を求める等、より良いケアを提供できるよう取組みがされている。	認知症高齢者の理解や地域との交流をより深めるためにも、事業所の行事を活用し開催する等、柔軟な会議運営の検討を望みたい。核となるいつもの参加者に加え、利用者や家族、職員、議題により消防団長や婦人会長等の参加を得る等の取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議・ケア会議等に参加し情報交換を行っている。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議や介護認定更新の機会などを通して、利用者の支援上の課題等について相談したり、市担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズの具体的な内容を伝え連携を深めている。また介護相談員が来訪し、利用者の話を聞き相談に応じるなどしている。その内容についてはホームに報告してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修の参加またケアカン・業カン時に話し合いをし身体拘束をしないケアをスタッフ全員が行っている。	
			(外部評価) 管理者や職員は、安全面を考慮しながら身体拘束について考え、自分達の業務内容を振り返り、拘束のないケアに取り組んでいる。また、日々の業務の中で言葉で拘束することがないように職員間で常に気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の参加。ホームで話し合いの場を設け虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業者内で学ぶ機会をもっており必要性を関係者と話し合った事もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者・家族が不安がないよう十分に説明をするようにしている。また疑問をもたれた時随時対応し理解していただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部の方へ意見を表せる機会は、あまりもてていないように思う。しかし、利用者の意見は日々の生活の中での会話から気持ちを引き出し、よりよい環境が作れるよう努力している。ご家族の意見は年1回開催している会の中で改めて話を聞かせていただく時間をつくっている。また面会時等、随時きかせていただき運営に反映させる努力をしている。 (外部評価) 玄関に意見箱を設置したり、家族の面会の時や家族会で意見や要望等を聞くように努めている。家族からの意見はあまりないが、細やかなことでも早急に対応するように心がけている。また、介護相談員の来訪時に、利用者の意見や要望等を聞き取ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回ホーム長会議開催、ホーム長会議・業務カンファレンス・ケアカンファレンス開催している。日々の勤務時を含め常にスタッフのい意見・提案をきき反映させる努力はしている。 (外部評価) 管理者は職員が話しやすい雰囲気作りに努め、職員からの意見や提案を聞いている。外部研修も職員が希望すれば受講できるよう調整している。受講した後は、報告書を作成しホーム内学習で研修内容の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職個々の努力・状況を把握するようにしているように思うが更なる職場環境条件の整備に努力が必要と思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年2回社内研修あり。社外の研修へ参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 見学の受け入れは行っている。研修に参加をする事で同業者との交流・情報交換をする機会をつくる努力をしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の希望・不安をきくと共に、その方の過去・現在を知り、その方を理解し不安なく過ごせるよう信頼関係を築く努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査及びホーム見学時困っている事、不安な事、希望などを聞く機会をつくり信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族との話合いの中で、その時必要としている支援を見極めようと努めているが事業所内でできる事にとどまり他サービス利用を含めた対応にまで至っていない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の過去の経験を生かし家事等行える事は行っていただき一緒に作業したりするなかで共に暮らし支えあう関係を築けるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方は利用者の方が以前から得意としていた事が(つくしのハカマとり等)行えるよう面会時に差し入れていただけたり声かけていただけたりする。職員は家族の方が帰られた後も継続し行えるよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 十分とは言えないが家族の方、友人の方から手紙をいただくことがあれば返信のお手伝いをしたりTELの受け渡しなど行っている。 (外部評価) 以前から利用している美容室等、家族の協力も得ながら継続して利用できるよう支援している。また、希望に応じて利用者の生家がある地域に出かけることもある。目の前のコンビニに買い物に行き、店員との新しい馴染みもできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の関係を把握し良好な関係が築けるよう席順にも工夫している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 機会があれば、できるだけフォローをする体制でいるが現在は継続的な関わりを必要としている方はおられない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居前、またホームで生活する中で利用者それぞれの希望・意向の把握に努め、それぞれに暮らしやすい環境になるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者の生活歴や、日々の生活の中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を聞きながら把握している。利用者とは、一対一の時に思いや希望を聞かせてもらっている。ケアの中での気付きは、記録ファイルを活用して全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族からの情報を基に日々の生活の中でスタッフ間で情報交換し合い一人一人の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の状態は介護記録・業務日誌に記入し職員は出勤時必ず必ず目を通すようにしている。また職員は観察力を養うよう努め入居者の現状把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 入居前に本人・家族の希望・意見を聞き意見を反映した介護計画をたてている、また日々の生活の中での観察をし月に1度職員間で話あいをしている。 (外部評価) 管理者や職員が意見を出し合い利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成している。完成した計画は家族に確認してもらっている。毎月のカンファレンスで見直しや評価をしている。状態の変化が見られる場合も随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活状況を記入する介護記録が個別にあり特別変わりのあった事は業務日誌に記入し出勤時職員は必ずを通すようにしている。また月1回ケアカンファレンスにて話し合いをし介護記録の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) マッサージ師 訪問等実施する等取り組もうと努力はしているが不十分なのかもしれない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 施設前にコンビニがある事から本人が希望される際にはコンビニへ買い物等支援している。しかし地域資源の活用は不十分に思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前に本人・家族の方の意向を聞き病院を選択して いただいている。月2回往診あり。状況に応じ専門医院 受診支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を継続 できるよう、家族の協力を得ながら支援している。法 人代表者が医師であり定期的な往診が行われている。 また、専門医への受診等、適切な医療が受けられるよ う支援をし、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員は日々利用者を観察し変化があれば職場内の看護 職員・病院にTELし相談し適切な対応をするようにして いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 変化があれば相談する等情報交換をし医療機関と連携 を取っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時から本人・家族の意見を聞かせていただいでい る、重度化した場合や終末期	
			(外部評価) 入居時、看取りに関する指針に基づき事業所における 介護の考え方を説明している。マニュアルや医療との 連携体制も整えている。利用者が住み慣れたホームで 安心して最期を迎えられるよう今後は、職員の学習を 深めていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回救命講習を行って緊急時迅速な対応ができるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災訓練は定期的に行っている運営推進会議時に地域の方に災害時の協力を、よびかけている。 (外部評価) スプリンクラーや緊急通報機、消火器を設置し、防災避難訓練を年2回実施している。運営推進会議でも議題に出す等しているが、地域住民の協力や災害時の備蓄はこれからである。	運営推進会議を活用し、日頃から地域住民との密接な連携体制を確保するなど、訓練の実施に協力が得られる体制づくりに努めることを望みたい。また、医薬品やラジオ、飲料水、食料等の備蓄がされるよう取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけには注意している職員同士声を掛け合い良いところは褒め悪いところは指摘し合い一人一人を尊重するように努めている。 (外部評価) 職員は、常に利用者を人生の先輩として接することを心がけている。日常生活の中での排泄の誘導や入浴時等の場面では、利用者の誇りやプライバシーを損なう事がないよう気配りし、さりげない声かけをしながらかケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を言い表せるような雰囲気作りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合に合わせていただく事もあるが本人に問う事は、もちろん体調・表情等みて声かけし本人に納得してもらた上で行ってもらうようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容師の来所をうけ利用者一人一人の好みに合った髪型にしている。メイクをされる方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 可能な限り利用者の方に食事の下ごしらえをさせていただいている。好みにあったドレッシング等使い分けている。なるべく自分で食べてもらえるよう、おにぎりを作ったり、おかずを刻んだりし食べやすいようにしている。利用者と職員と一緒に準備し食事し片づけている。 (外部評価) 職員が会話のきっかけや話題を提供し、利用者同志が楽しく食事ができる雰囲気づくりをしている。嚥下困難な利用者にはトロミやミキサー、キザミ食にする等状態に合わせて工夫している。職員は、介助の必要な利用者に対して個々に対応するなどの理由から、現在一緒に食事はしていないが、今後に向けて検討を続けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の水分量・食事量のチェックをしている。食事の時間に、あまり食べられないようであれば時間をずらし再び声かける。水分量が少ないようであれば飲み物の味に変化をつけ対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る方は自分で出来ない方は介助にて毎食後口腔ケアは行っている。週1回ポリデントで義歯洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 座位のとれる方は排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間やしぐさを見てさりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄を支援している。利用者の状況に応じてオムツや尿取りパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給を心がけている。排泄チェックを行い便秘を防ぐ努力をしている。薬に頼る事もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく希望やタイミングに合わせ入ってもらえるようには思っており入浴前に意孝を聞くようにはしている。基本的に入浴を嫌がられる方もおられるが、その方に対しては事前の声かけはしていないものの浴室に入ると喜んでいただけるよう、その方のペースに合わせた支援をしている。	
			(外部評価) 利用者の希望や時間、その日の気分、体調に合わせて自分のペースで入浴できるよう対応している。入浴の苦手な利用者には声かけを工夫する等し、少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。毎日入浴する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 無理強いせず本人にまかせ休んでいただいている。昼夜逆転ぎみの方には、夜眠れるよう昼間、退屈せず楽しんで生活できるよう支援し夜間休めるよう支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋をファイルに閉じており職員全員が一人一人の薬の目的・副作用について理解できるようにしている。また利用者の観察を心がけ変わりがあれば看護師・医師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) なるべく家事全般利用者の方と一緒にっておりレクレーション等多くの取り組みをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を聞いたりし概ね月に1度戸外にでかけている。その日希望があれば施設前のコンビニに買い物に行く事あり。	
			(外部評価) 日常的に近くのコンビニで買い物したり、周辺を散歩したりしている。室内の生活が続く利用者は体調を考慮しながら、玄関前での外気浴や中庭での日向ぼっこ等を行っている。重度化に伴い、外出する利用者は限られてきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金をもつ大切さを理解している。本人・家族の希望があれば本人が、お金を所持し自由に使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があればTEL・手紙（代筆をする事あり）のやり取りができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホーム内毎日掃除をし清潔を保っている。花を飾ったり季節にあった飾りを掲示する等して季節感をだす工夫をしている。利用者に合わせた室温調整をしている。	
			(外部評価) リビング兼食堂は自然光で明るく、ソファが置かれたり、畳の空間もあり思い思いにゆったりとくつろげる配慮がされている。壁や廊下には、利用者と一緒に作った作品や写真が飾られている。中庭にはウッドデッキを設置しており、そうめん流しやバーベキュー等楽しむ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人一人に個室があり独りになれる場所もある。またふらあでは気のあった者同士話せるよう席順にも工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベット・タンスは据え置き物を使用させていただいているが使い慣れた物があれば自由に持ち込んでもらえるよう声かけている。現在TV・寝具などもってきていただいている方もおられる。	
			(外部評価) 居室には備え付けのタンスやベッド、洗面台がある他は、利用者の使い慣れた家具や愛用していた物品が持ち込まれ、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真などが飾られ、居心地よく過ごすことができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自室タンスには地震対策の突っ張り棒を設置している。施設内はバリアフリーになっており廊下・トイレ・浴室に手すりを設置している。自室では身体能力に合わせてベット柵の種類・椅子の種類を変える等し安全面に気を使っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	伊予市中山町中山丑523番地1
自己評価作成日	平成 23年8月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 23年 8月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりのやりたいこと、望まれていることを尊重することに努力しています。豊かな自然に囲まれるのんびり暮らして頂くことができると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の健康管理や緊急時の対応等について、協力医療機関と速やかに連携を図る体制が構築されており、利用者や家族は医療面の不安なく過ごしている。職員は、笑顔が心がけ、各自のロッカーに笑顔で接する具体的な努力目標を掲示している。管理者は日頃からケアに携わっており、職員とコミュニケーションが良くとれている。職員からも「意見が言いやすく明るい職場です」と笑顔で話があり職員同士の仲がよく、共にケアの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) ほたる

記入者(管理者)
氏名 岡田 絹子

評価完了日 平成23年8月3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全体の理念は、できている。フロア内に掲示している。開設して4年になるので、スタッフ間独自の理念を新たに作成した。</p> <p>(外部評価) 法人の運営理念を基に、地域とのつながりを大切にしながらその人らしく暮らしていくことを支える「私たちの介護理念」を各ユニットごとで作成し、ホーム内の見やすい場所に掲示している。月1回のカンファレンスで共通認識を持ちより質の高いサービスの提供に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的にはできていない。買物、散歩などに行き交流に努力している。 花見などの季節行事など、地域を利用している。</p> <p>(外部評価) 地域の人々と繋がりを持ちたいという思いから、町内会に加入し、回覧板を通して地域の行事等を把握している。中学校の総合学習の受け入れも行っている。地域との関わりを深めるよう模索しながら取り組む姿勢がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人々に向けた支援の方法を示す場面がかなり少なくできていない。具体的にどうすれば良いか考えてはいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 今年度会議を開く回数は2ヶ月に1度のペースで開催したが出席者が少なくサービスに活かせる内容にならなかった。内容がともなわなかった。	
			(外部評価) 運営推進会議は定期的に開催され、ホームの現状や行事等を報告し、ホームの抱える課題について参加者に意見を求める等、より良いケアを提供できるよう取組みがされている。	認知症高齢者の理解や地域との交流をより深めるためにも、事業所の行事を活用し開催する等、柔軟な会議運営の検討を望みたい。核となるいつもの参加者に加え、利用者や家族、職員、議題により消防団長や婦人会長等の参加を得る等の取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 中山町ケア会議などがあるがあまり参加できていない。しかし個別にCMさん等から連絡を取り合い、協力関係ができるようにしている。	
			(外部評価) 市担当者とは運営推進会議や介護認定更新の機会などを通して、利用者の支援上の課題等について相談したり、市担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズの具体的な内容を伝え連携を深めている。また介護相談員が来訪し、利用者の話を聞き相談に応じるなどしている。その内容についてはホームに報告してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が正しく理解しているというのは難しいが研修等に参加し、それを会議等にて周知している。	
			(外部評価) 管理者や職員は、安全面を考慮しながら身体拘束について考え、自分達の業務内容を振り返り、拘束のないケアに取り組んでいる。また、日々の業務の中で言葉で拘束することがないように職員間で常に気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が注意を払い防止に努めている。虐待の法律について学ぶ機会は少ない。しかし職員間で勉強し話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) この制度を活用するかどうかという問題になった時学ぶ機会があった。しかし充分とは言えない。深くは理解していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族の方が不安を持たれない様説明している。疑問点などがあればいつでも相談に応じるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部者へ表わせる機会は設けていないが利用者家族の方の意見を取り入れ運営に反映させている。 御意見箱の設置 (外部評価) 玄関に意見箱を設置したり、家族の面会の時や家族会で意見や要望等を聞くように努めている。家族からの意見はあまりないが、細やかなことでも早急に対応するように心がけている。また、介護相談員の来訪時に、利用者の意見や要望等を聞き取ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の勤務時を含めスタッフの意見に耳を傾け反映させている。2ヶ月に1回のホーム長会議の開催、カンファレンスを月1回行っている。 (外部評価) 管理者は職員が話しやすい雰囲気作りに努め、職員からの意見や提案を聞いている。外部研修も職員が希望すれば受講できるよう調整している。受講した後は、報告書を作成しホーム内学習で研修内容の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力など勤務状況を把握するようにしている。しかし更なる職場環境条件の整備に努力が必要と思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内で短時間ではあるが勉強会を持っている。また研修に参加した職員から報告を受けたりしている。働きながらのトレーニングは進めていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修に参加し他同業者との交流に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の過去現在、これからの希望不安などをきき、理解するよう努力している。また内的感情にまで迫れるように傾聴している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方の要望、不安なことは話をよくきくようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階で、本人、家族と話し合いどのような支援が良いか考え対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人にまかせきりにしないで、できることはして頂くようにして関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方には面会時、電話等で近況報告し共に本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの人や場所があり本人が行きたいと希望する場合同行訪問している。 (外部評価) 以前から利用している美容室等、家族の協力も得ながら継続して利用できるよう支援している。また、希望に応じて利用者の生家がある地域に出かけることもある。目の前のコンビニに買い物に行き、店員との新しい馴染みもできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は把握している。 一人ひとりが関わり支え合える関係がうまくできていない。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者、家族の方は現在おられない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向は会話の中にあり暮らしの希望、意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者の生活歴や、日々の生活の中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を聞きながら把握している。利用者とは、一対一の時に思いや希望を聞かせてもらっている。ケアの中での気付きは、記録ファイルを活用して全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメント、また家族からの情報などで経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方身体状況は把握できるが「心」「有する力」の現状の把握には至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回職員全員でケアカンファレンスを行い本人家族の希望などを話し合い利用者本意の計画となるよう努力している。また、利用者が日々の生活の中で、変化があった時はその都度話し合って計画に反映させている。	
			(外部評価) 管理者や職員が意見を出し合い利用者や家族の思いを反映した介護計画を作成している。完成した計画は家族に確認してもらっている。毎月のカンファレンスで見直しや評価をしている。状態の変化が見られる場合も随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活を書いた個別介護記録し月1回ケアプランの見直しをしている。情報を共有し現状にあったプランを作成し実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の同意のもとに受診等の支援を行っている。その時々ニーズに対応している。変化に応じたサービスができている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源は把握している。しかし実際に地域資源と協働ということがかなり少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医が月2回往診にきてくれている。緊急時の対応 も出来るようになってきている。本人、家族の了解の下専 門医の受診も支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を継続 できるよう、家族の協力を得ながら支援している。法 人代表者が医師であり定期的な往診が行われている。 また、専門医への受診等、適切な医療が受けられるよ う支援をし、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 変化が生じた場合看護職員に伝え、相談し適切に対応 できるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 緊急時だけでなく日頃から連携を取り情報交換、相談 をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や看取りに対しては家族の意思を尊重し家族、 職員、医師が話し合いしている。特に看取りに関して は家族の全面的な協力が必要であると思われ話し合い をしている。	
			(外部評価) 入居時、看取りに関する指針に基づき事業所における 介護の考え方を説明している。マニュアルや医療との 連携体制も整えている。利用者が住み慣れたホームで 安心して最期を迎えられるよう今後は、職員の学習を 深めていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習を受け、急変時の対応に備えている。年1回の講習を受けるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対応は話し合いにとどまっている。火災時の訓練は実践したが、地域の方の参加はない。近所の方に応援は要請している。 (外部評価) スプリンクラーや緊急通報機、消火器を設置し、防災避難訓練を年2回実施している。運営推進会議でも議題に出す等しているが、地域住民の協力や災害時の備蓄はこれからである。	運営推進会議を活用し、日頃から地域住民との密接な連携体制を確保するなど、訓練の実施に協力が得られる体制づくりに努めることを望みたい。また、医薬品やラジオ、飲料水、食料等の備蓄がされるよう取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応に注意している。 大声で話さない。本人が失敗された時などさりげなく対応するなど心がけている。 (外部評価) 職員は、常に利用者を人生の先輩として接することを心がけている。日常生活の中での排泄の誘導や入浴時等の場面では、利用者の誇りやプライバシーを損なう事がないよう気配りし、さりげない声かけをしながらケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に着がえの服を選んで頂いたり飲み物を決めてもらったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴など職員側の立場を優先することがある。しかし、大半は何時に何をすることはせずその方の「今」を大事に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は2~3ヶ月に1回美容師来所で対応している。服など選ぶことができない人もいたのでその時は職員が考えておしゃれをして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえ、準備、片づけなどして頂いている。味覚も「おいしい」と言ってもらった味付けになるようにしている。	
			(外部評価) 職員が会話のきっかけや話題を提供し、利用者同志が楽しく食事ができる雰囲気づくりをしている。嚥下困難な利用者にはトロミやミキサー、キザミ食にする等状態に合わせて工夫している。職員は、介助の必要な利用者に対して個々に対応するなどの理由から、現在一緒に食事はしていないが、今後に向けて検討を続けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの水分量、食事量のチェックをしている。それを見て足りない時は意識的に声かけなど水分摂取を促している。習慣になっているセンナ茶をのまれている方もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一部の方ができていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄、失敗が少なくなるよう時間を見て誘導している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間やしぐさを見てさりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄を支援している。利用者の状況に応じてオムツや尿取りパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取チェック表などを利用し定期的な排泄ができるよう支援している。 時には薬（マグミット、センナリド）センナ茶で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望に応じた入浴はできていない。清潔を保つよう日は決めず入浴して頂いている。入浴できなかった方が現在入浴できるようになっている。	
			(外部評価) 利用者の希望や時間、その日の気分、体調に合わせて自分のペースで入浴できるよう対応している。入浴の苦手な利用者には声かけを工夫する等し、少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。毎日入浴する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 時間を決めずその方の立ち場になって休息して頂いている。安心して気持ちよく眠られるよう見守り見回りをし空調などを整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬状をファイルにして職員が副作用、用法を理解できるようにしている。その後の状態も記録にし様観する様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人しかしらない役割、楽しみごとの支援している。紙で折る箱作り、プランターでの野菜、花を植えるなど。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出支援はできていない。戸外に出るのもホームの回りぐらいである。普段行けない所には家族の協力が出かけられている。	
			(外部評価) 日常的に近くのコンビニで買い物したり、周辺を散歩したりしている。室内の生活が続く利用者は体調を考慮しながら、玄関前での外気浴や中庭での日向ぼっこ等を行っている。重度化に伴い、外出する利用者は限られてきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が「お金を持っておきたい」との意思がある時は所持して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでもかけたい時にできる様支援している。手紙はやり取りまでにはいかず受け取った手紙を渡しているのみで返事は書くことができない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は季節の花などを飾り居心地良く過ごせる様工夫している。光は遮光カーテンで調整している。室温は空調にて行っている。	
			(外部評価) リビング兼食堂は自然光で明るく、ソファが置かれたり、畳の空間もあり思い思いにゆったりとくつろげる配慮がされている。壁や廊下には、利用者と一緒に作った作品や写真が飾られている。中庭にはウッドデッキを設置しており、そうめん流しやバーベキュー等楽しむ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の座る所を決めておられる。フロアにきたら安心してすごして頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真などを飾ったり使い慣れた毛布、タオルケットなどを使用して頂き、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 居室には備え付けのダンスやベッド、洗面台がある他は、利用者の使い慣れた家具や愛用していた物品が持ち込まれ、家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真などが飾られ、居心地よく過ごすことができるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーとなっている。廊下、トイレ、浴室にはすりがついている。ダンスには地震にそなえて、つっぱり棒を設置している。	